

『菊池惺堂日記』第四冊

(昭和六年五月—昭和七年一〇月)

下田 章平

菊池惺堂（一八六七—一九三五）は、実業家、政治家、南画家、書画碑帖收藏家、蔵書家として活動した人物である。

平成三〇年（二〇一八）九月一日、菊池隆村氏（菊池家当主、惺堂の孫）宅に伺い、惺堂関係資料の調査を行った際に、書棚から全四冊からなる惺堂の日記が偶然発見された。この日記四冊はすべて和装本であり、昭和二年一月一日から昭和七年一〇月二六日まで記されており、これらを便宜的に『菊池惺堂日記』と呼ぶことにしたい。

この日記は単に昭和初期における菊池家の動向を伝えるだけでなく、稿者が興味のある近代日中書画碑帖收藏史、ひいては都市行政学、経済史、文化史研究の分野においても資料的価値は高いと考えられる。

この度菊池隆村氏のご厚意により日記の翻刻を掲載できる機会を得たが、日記の分量が多いため、日記第一冊は『書法漢学研究』、第二冊は『中国近現代文化研究』、第三冊は『相模女子大学紀要』人文系、自然系、社会系、第四冊は『相模国文』に順次分載することにした。

なお、惺堂の経歴は、拙稿「菊池惺堂とその家系（『中国近現代文化研究』第一五号、二八—五〇頁）、本日記の詳細な解説は、『書法漢学研究』（本日記第一冊所収）を参照されたい。また、閲覧者の便を考えて、凡例はすべての掲載誌に、この略記に関しては日記第二冊から第四冊に載せることにした。

○凡例

・漢字は通行字体のあるものはそれに従った。またひらがなはそのままとし、変体仮名や合略仮名が用いられ

た場合は、現在の通行表記に改めた上で、それらをルビに表記した。

- ・ 原文にある句読点はそのまま記し、読みやすさを考えて、日時は一字下げとし、また句点のあると考えられる箇所や、人名や地名などが続く場合は、半字空きとした。

- ・ 濁点の有無には揺れが認められるが、原文に従った。

- ・ 原文には現在の表記や仮名遣いと異なるもの、あるいは文意の通りにくい箇所が散見するが、基本的に原文を尊重した。ただし、明らかに誤りと見られるものは「(ママ)」とルビを振った上で、「」に訂正した語を記した。

- ・ 原文に脱字が見える場合は「」に補足した。

- ・ 本文の訂正や追記はその旨を特に記さない。また、訂正前の文言は削除した。

- ・ 編者の原文の補足や注記は「」に記した。

- ・ 「」には原文の割注を示した。

- ・ 欄外に「日」とあるものは「日曜日」を示しており、日記の途中から見えるようになる。これらは、便宜上注記で逐次示さずに、日付の上に記すことにする。

- ・ 判読できない文字は「□」で示し、疑わしい文字には

「？」とルビした。

〔題簽〕

日記 自昭和六年五月

至昭和七年十月

〔本文〕

昭和六年五月廿九日岐阜滞在 余等兩人ノ外微笑先生夫婦 慧一郎 介二郎 庸子 正子 小倉 梅や等ニテ賑カナリ。微笑先生ハ名古屋ヘ行カル。午後公園ヲ散歩ス。夜鳥海氏来。小倉帰京ス

五月三十日 晴 午前微笑先生夫婦帰京ノ途ニ就ク 午後高富大龍寺ニ再ビ山田先生ノ墓ニ展ス 近日帰京セントメナリ 三田洞ニ立寄りテ帰ル

日 五月卅一日 晴 一同ト長良橋畔ノ魚鉄ニ行午餐ニ鰻魚ヲ食ス。午後五時慧子供等ト京都ヘ帰ル

六月一日 晴 伊勢神宮ニ参拝セント 午前八時五分岐阜駅ヲ発シ大垣ニ到リ 電車ニ乗り換ヘ養老ヲ過キテ南行 桑名 四日市 松阪等ヲ過キテ 十二時半外宮前ニ着ス之ヨリ自動車ニテ外宮ヲ拝シ御幸道路ヲ経テ内宮ニ参拝 スイツモナガラ其神々シキニ唯ヌカツキ(△△)「ク」バカリナリ 参拝者中々賑フ 夫ヨリ二見見物シ松新ト云ヘルニ

少憩午餐シ 又自動車ニテ鳥羽ニ一遊ス 途上風景佳シ
日和山ニ上ル 港ニ臨ンテ眺望佳絶 種々ノ島□「与」
に「鳥」。「嶼」字の誤りか」ヲ望ミ 遙ニ知多熱海半島
ヲ煙波ノ間ニ望ム 時ニハ富岳ヲ觀得ルト云フ 港外ニハ
第一艦隊釘〔碇〕泊シ居リタリ 近日演習アルタメナリ
ト云フ 山ヲ下リ帰途ニツキ外宮前ニ歸リ 五時四十四分
ニテ發シ 来路ノ如ク九時半頃岐阜ニ歸着セリ。博文堂
老人来リシ由ニテ長良館ニ泊セリト云フ

二日 晴 午前博文堂老人来話 鄭所南ノ蘭ノ名卷ヲ持
參シ来レリ。午後鳥海氏来

三日 晴 午前廉堂 お糸 梅ヤ同行ニテ 九時十分發ニ
テ高山線ニ乗込ミ下呂ニ向フ 途中鵜沼ヨリ木曾川ノ沿
岸ヲ進行 例ノ日本ライント称スル地ナリ 風光佳絶ナリ
太田ニ木曾本線 多治見ニ聯絡線「奥ライント称ス」ア
リ下麻布〔生〕ヨリ上麻生辺飛驒川ニ沿フ 溪流狭ケ
トモ奇岩怪石多シ 金山ヨリ飛驒ニ入ル 是ヨリ焼石ヲ經
テ下呂ニ到ル 益田川ノ溪流ヲ中山七里ト称シテ有名ノ
勝地ナリ 十二時十七分下呂ニ着ス 下車シテ対岸ノ温泉
町ニ入り 山田旅館ニ投ズ 昨年新築ノ由ニテ高地ニテ眺
望ヨク温泉ハ外湯ヲ白鷺ノ湯ト 薬師ノ湯トニケ所アリ
白鷺ノ湯ニ浴ス 硫黄質ナレトモ清潔ナリ 町ニ名産一位

細具ナト求ム

四日 晴 午前八時ヨリ自動車ニテ高山ニ向フ 益田川
ニ沿フテ上ル 萩原小坂ナト經テ宮峠ニ到ル 之ヲ南北ノ
分水嶺トナス 海拔二千五百八十余尺ナリト云 是ヨリ下
リ阪ニナリ 高山平原ニ下ル 途上水無神社ニ詣ス 古社
ニテ当国ノ一ノ宮ナリト云フ 飛驒匠ノ作ノ馬アリ 奇□
〔図〕字か。「圖」字内側のみの草体に作る」ナリ □メチ
木ノ〔ト〕云ヘル奇木アリ 高山町ニ入ル 山中ニ珍ラシ
ク繁華ノ地ナリ 旅館長瀬富春館ニ投ス 下呂ヨリ十二里
程ニテ三時間半ヲ要セリ 午餐ス 飛驒山半野人ノ使用
スル古器ヲ觀ル 自ラ雅致アリ 数種ヲ購フ 宿ノ主人ノ
案内ニテ処々見物ス 公園ニ上ル 旧城趾ナリ 東北方ニ
例ノアルプス諸山ヲ望ム 笠ヶ岳 槍ヶ岳 乗鞍岳 穂高
岳等ナリ 皆白雪ヲ戴リ〔キ〕夫ヨリ下リ市街ヲ經テ国
分寺ノ古建築 古仏等ヲ觀ル 東本願寺ノ別院ヲ觀ル 高
等女学校庭園ノ池ニ大鯉三尺余ナルヲ觀ル 是ヨリ帰途
ニ就キ 来路ヲタドル 上呂ニ久津八幡神社ヲ詣ス 左リ
甚五郎作ト称スル鯉魚ヲ觀ル 中呂ニ禅昌寺ト云ヘル古
刹〔刹〕アリ 後奈良天皇 円融天皇ノ頼願所ニテ妙心寺
派ノ禅寺ナリ 下呂ニ着ス 四時廿七分發ニ乘リ込ミ七時
五十八分岐阜ニ着ス

五日晴 内藤湖南ヨリ書状来リ 十七帖ニツキ異見ヲ述べ来ル。青木英作ヨリ書状来 東海連中七日ニ来遊ノ由ナリ。次郎ヨリ端書来。午後廉堂帰京ス。商務所ニ行キ鳥海氏ニ値フ。青木氏ノ使 戸倉氏来リ 七日午後四時過万松館ニ集会ノ由通知シ来ル。暑氣頓ニ加ハリ八十三度ニ至ル。

六日晴 午前揮毫ス。午後小堀武来。夜高富石田川^乃ノ螢ヲ見ル 小流ノ兩岸ニ満天ノ星ヲ見ル如ク 数万ノ螢火群ヲナス 実ニ見モノナリ 只見物人ノ雜沓モ驚クベシ

七日晴 午前丸物迄買物ニ行。白石四郎母及子供等ト来ル。東海銀行旧友会連中 加納友之助 滝沢民 手束藤三郎 菊池次郎 青木英作 高橋義夫 小平〔二字アキ〕等今朝名古屋着ノ上犬山ライン下リヲナシテ 午後五時万松館ニ着セリト云フ 因テ之ニ赴ク 共ニ遊船ヲ艤シ長良川ニ鵜飼見物ヲナス 夜九時鵜飼舟上流ニ下ル 之ヲ觀ル人々愉快ト叫ブ 了テ万松館ニ歸リ 又浅野屋ニ一遊スルコトトナル。夜雨

八日晴 午前万松館ヨリ歸ル。梅ヤ帰京ス。明子小倉ト共ニ来ル。旧友会連中ハ養老ニ赴ク。

九日晴 午後鳥海来 種々相談アリ

十日晴 午前市中ニ買物ス。午後五時ヨリ万松館ニ赴

キ鳥海 伊藤 西村ヲ招キ別ヲ舒ス 蘓原銀行重役山田氏モ臨席ス 常敏 米丸等陪席ス

十一日晴 愈帰京ノ途ニ上ル 十一^(マ)時十分發ニテ名古屋ニ行キ 三時五十二分ノ特急燕号ニ乗り込ム 満員ニテ急〔窮〕 屈ナリ沼津[?] 横浜ヲ停車スルノミニテ 九時二十分東京駅着 廉堂等迎ニ来ル 途中ヨリ雨

十二日雨 午前山田ニ行。夜百話会ニ出席ス

十三日晴 午後春日井兩人来 十一日平野氏ト結納取カハセ相済ミシ由ナリ。博文堂老人来

十四日晴 午前木下氏ト田辺氏ニ行キ吊詞ヲ述ブ。木口尚友堂来。午後春日井兩人来 明日帰名ノ筈ト云フ

十五日晴 日本橋俱樂部午餐会ニ出席ス 帰途銀座松屋ニ立寄ル。夜関原来

十六日晴 午前山田ニ行。中村長安来

十七日曇雨 久吉来。午前上野銀行迄行。夜九時十分強震アリ

十八日曇 午後三野村三千代来。小倉岐阜ヨリ歸り来ル

十九日晴 午後丸ノ内ノ文墨洞ニ中村長安ヲ訪フ。午前博文堂老人来。蘓原銀行ノ件ニツキ青木英作ニ書状出ス

二十日 曇 倶楽部午餐会ニ行 終テ伊藤癡遊ノ維新歴
史公武合体論ノ事ヨリ和宮降下 坂下事件等ヨリ引テ訥
庵 澹如先生ノ事迄言及ス。帰途神明町ニテお糸ニ逢フ
栗本義精他ノ二人同伴者ヲ連レ玄関ニテ面会ヲ要求シ不
穩ノ有様アレバ暫ラク避クル方ヨロシカラントノ事故弥
生町正太郎方ニ行キ 正太郎ヲ田端ニ行処置セシム。鳥
海氏 小倉ノ〔ト〕共ニ来ル 岐阜ノ件ニツキ報告アリ。
正太郎ノ談判ノ結果 逆ニ巡查派出所ニ届ケ出デタレ
バ 最早何事モアルマジトノコトニ帰宅ス

日 廿一日 曇 今朝ヨリ栗本又々来リ面会ヲ強要ス 正
太郎ヲ呼ビ談ゼシム 不当ノ暴言ヲ弄スト云フ 昨日ノ派
出所ハ管轄違ヒナリシ由ニテ阪下ノ派出所ニ届ケ出タレ
バ 早速巡查来リ連レ行キシト云フ。麻布ノ町田ニ行 親
戚一同来会 午餐ヲ饗セラル

廿二日 晴 午前渋谷正吉ヲ訪フ。滝ノ川警察ヨリ一度
栗本ニ面会スル方ヨカラント申シ来ル 因テ正太郎ト共
ニ行 栗本ニ面会ス 不当ノコトヲ述ブ 因テ一切関係ナ
シ 将来モ面会ハ謝絶スト告ゲテ帰ル。午後山田ニ行 俱
楽部ニ行。お糸ト歌舞〔伎〕座ニ行〔「」〕滝御入道〔マ〕
〔土屋主税〕〔道成寺〕〔紙屋治兵エ〕等ニテ菊五郎一座
ニ大阪ノ雁次郎 福助等ヲ加ヘタル狂言ナリ

廿三日 晴 午後廉堂ト染井ノ墓地ニ山田老先生ノ分骨
ノ墓ヲ拝ス 信照庵ト云ヘル案内所アリ。小倉来。鳥海
来。

廿四日 曇 片付物ヲスル

廿五日 梅雨 愈入梅ラシクナル

廿六日 曇 午後松坂屋ニ行。三栢ビルノ文墨洞ニ行
鈴木三畝 川村驥山等来会ス。午前木口来 高田ノ幅托ス。

廿七日 晴 午前木口来。夜駒松二郎 大崎某ヲ伴ナフ
テ来 将碁ノ大家ニテ八段ナリト云フ 土佐人ナリ 山易〔マ〕
〔陽力〕ノ幅ヲ持参シテ鑑定ヲ乞フ 贋物ナリ。鳥海氏来
明日岐阜ニ行クト云フ 小倉来

日 廿八日 曇 午前森村氏来。神田ニ散歩 古本やヲ漁
サル。午後日本橋東美倶楽部ニ行古本展覧会アリ

廿九日 晴 午前山田ニ行。午後大崎熊雄来 倪元璐ノ
幅ヲ持参ス 贋物ナリ。青木ヨリ返書来

三十日 晴 午前一時十分地震アリ。金子来。小倉来。

七月一日 晴 朝三野村ヨリ電話ニテ安太郎昨夜突然発
病 中風ノ模様ニテ半身シビレタリト云フ 午前介二郎ト
見舞ニ行ク 至テ軽症ノ由ニテ安堵シテ帰ル。

二日 晴 午後丸ビルニ行買物ス。小倉来。夜清水芳園
来。木口来

三日 晴夜雨 午後山田ニ行。安田銀行ニ行。中村長安来。中村茂八来。小島来。

四日 晴午后雨 午前民人羅原覚 頼国美来ル 書画ヲ好ムト云フ 数品ヲ示ス。午後三野村ヲ訪フ 稍良好ナリト云フ。大雷雨来ル

日 五日 晴 午前加賀百万堂来。原田博文堂来。俱樂部ノ午餐会ニ出席ス了テ藤田某ノ忍術ニ関スル講演アリ。廉堂ト大森望翠楼ホテルニ羅原覚ヲ訪フ 書画数点ヲ觀ル

六日 雨 午前山田ニ行 田中青山伯ニ値フ 来年一月十日坂下事件ノ七十年祭礼ヲ行フコトニツキ相談アリ。

七日 雨 午前原田博文堂来。午後五時名古屋ヨリ春日井統子 育子上京 当分滞在ノ筈ナリ

八日 曇 午後博文堂来

九日 雨 午後六時ヨリ百尺ノ百話会ニ出席ス

十日 雨 日々梅天鬱陶シ^志。次郎君来。午後山田ニ行。夜春日井主人来。小倉来

十一日 雨 午前上野迄行。午後高木光教 同五郎来。町田実秀ハ純子 秀春ヲ連レテ来ル

日 十二日 雨 天王寺ニ墓参ス

十三日 雨 午前宇都宮政市ヲ訪フ 山田ニ行。午後五

時ヨリ帝国劇場ニ行 春日井一行同行 竹町大橋ニ行

十四日 雨 午前木口尚友堂来。午後春日井一行名古屋ニ帰ル。鳥海氏来。小倉来

十五日 雨 午前本郷下谷ノ銀行ニ行。俱樂部ノ午餐会ニ出席ス。午前中山季丸来

十六日 曇 午後服部友三郎 石井貫一來。夜原田^(マ)僅〔謹〕次郎来。小倉来

十七日 晴 久々ニシテ日光ヲ仰ク。午後木口尚友堂来。服部 石井兩人来。高橋善十郎 好三来。夜小倉来

十八日 晴 午後六時ヨリ日本橋俱樂部ニ行 お糸介明〔子〕 春日井政代同行 川開キニテ大ニ賑フ。小倉来

日 十九日 晴 溽暑強ク八十六度ニ上ル。夜雨

二十日 曇雨 俱樂部ノ午餐会ニ出席 廉堂同伴 後藤朝太郎氏ノ「中華民國ノ裏面」ト云フ講話アリ

廿一日 曇 木口ト北越ニ一遊セント 夜九時十五分上野発ニ乗り込テ一睡信越ニ入ル

廿二日 曇 八時五十分新津着 一時程ニテ乗換 九時半新発田着 直チニ高橋旅館ニ着 午後松浦貞堂氏ヲ尋ヌ不在ナリ 気晴ニ立寄ル 泊ス

廿三日 曇雨

廿四日 雨晴 午前九時新発田発三条ニテ乗換 十二時

弥彦ニ着午後多賀氏ヲ訪フ 書画数点ヲ觀ル

廿五日 晴夜雨 午前揮毫ス 午後吉田ニ□井竹二郎氏ヲ訪フ 阿部氏ノ親戚ニテ中平モ来リ会ス 藏書画ヲ觀ル 夜弥彦神社参詣 花灯籠ヲ觀ル 廿八日 灯笼押ノ神事アリト云フ

日 廿六日 風雨 午前九時弥彦ヲ發 吉田ニテ乗換 十時五十分白山着 直チニ超願寺ニ目黒氏ノ書画売立会ニ行 鍋茶屋ニテ午餐ス 櫛清ニ投宿ス

廿七日 晴 午前新發田ヨリ太田氏来 伊陀利屋ニ行。午後氣晴 女将横山氏来話。午後九時發ノ急行ニ乗込ミ 帰京

廿八日 晴 午前九時半上野ニ着ス。

廿九日 曇 午後お糸介 明子等ト活動 駕籠屋大納言ヲ觀ル。博文堂来。夜小倉来。百万堂来

三十日 晴 午前博文堂来。午後お糸ト三野村ニ行 病後ノ經過大ニよシト云フ。木口尚友堂来。

三十一日 晴 午前山田ニ行。午前中村長安ヲ三柏ビルニ訪フ

八月一日 晴 午前微笑先生来 六日 陶庵先生五十年忌法会ニツキ相談アリ。三嶋吉太郎来。博文堂老人来 沈石田ノ名卷持参ス。小島甫来。夜木口来

日 二日 晴 午後お糸 小倉ト大森ニ行 山本氏ノ旧邸土地ヲ一覽ス

三日 晴 夜活動ニ行

四日 晴 午前上野迄行。午後守尾ニ買物ス

五日 晴 俱樂部ノ午餐会ニ行 松崎天民ノ「カツフェ」ノ漫談アリ。竹町大橋ニ行 神主ヲ拝ス

六日 晴 午後細田氏ヲ訪ヒ 親戚後藤氏ノ不幸ヲ吊ス。天王寺ニ行 陶庵君五十祭忌法会執行 河田烈君 伊沢毅 一郎等列席ス 終テ池ノ端翠松園ニテ晚餐ス。本日ハ暑氣強クナリ 八十八度位トナル

七日 晴 午前正太郎来。澹如先生神主ヲ祭ル 孝三来

八日 晴 午前天龍院へ墓参ス 三越ニ買物ス。午後大野本海堂先月廿五日死去之由ニ付キ吊問ス

日 九日 晴 九州ノ益田祐三 同豊彦来。中村長安来。近藤来。

十日 晴 新那須ニ避暑セント 廉堂ト午前九時二十分發ニテ上野ヲ發ス 急行ナレバ十二時二十八分黒磯ニ着ス 直チニ自動車ニテ新那須山樂ニ投ズ 然ルニ先日申込置承諾シタルニ俄ニ「一時アケ」陛下御用邸へ御滞留中ニテ 高松宮殿下当館へ御投宿ニテ座席多クフサガリタレバ 暫ク他ノ室ニテ我慢シタレトノコトニテ 次郎君ノ

隣室六畳ヲ僅カニ借り得タリ 流石ニ山中トテ八十一度ナレトモ山風清涼ナリ 午後日蓮上人ノ遺跡ナル珠数〔数珠〕割石ヲ觀ル 其傍ニ小堂アリ 喰初庵ト云フ 昔黒羽ノ藩主ノ幼児食氣ナキヲ苦ミ 此日蓮堂ニ祈願セシニ直チニ食氣ツキ健康ニナリタリト云フ 因テ京都ノ孝子此程ヨリ食氣ナキニ苦シミ居レバ 是奇縁ト祈願頼ム 夜風アリ

十一日 晴后雨 早朝ヨリ鶯声頻リニ夢ヲ呼ブ 庭上ヲ散歩スレバ前向雲海從テ爽快ナリ。東京ヨリ電話ニテ京都ノ子供遂ニ不帰ノ客トナルト云フ 憐ムベシ お糸京都ヘ行クト云フ。次郎君等ト占勝園ニ散歩ス 岡本米藏ノ所有地ナリト云フ 眺望佳絶ナリ 京都ヨリ電報ニテ改〔戒〕名頼ムトカ来ル 因テ京煙妙孝童女トツケテヤル。小雨ニテ冷氣七十四度 午後室ヲ移ス 新館西側ノ樓ノ間トテ六畳二間ナリ 静カニテ中庭ニ面シ氣分ヨシ

十二日 晴 午前廉堂 次郎君ト散歩 湯本ヨリ殺生石温泉神社等ヲ往テ帰ル 廉堂カ途中ヨリ那須岳ニ登ル。廉堂三時過帰ル。

十三日 晴曇雨 午前次郎君子供連レテ帰り又十八日頃来ルト云フ。午後一時高松宮殿下御出發。

十四日 晴曇雨 終日冷氣七十度ヲ下ル 山□時ニ来ル。

京都ヨリ葉書ニテ十五日ノ夜行ニテ一同遺骨ヲ携ヘテ帰京 十六日午前着 直チニ天龍院ヘ行法会埋葬スル由ナリ 十五日 晴 午前十一時ノ汽車ニテ廉堂帰京ス 埋葬ニ参列ノ為メナリ。

日 十六日 晴 午後東山公園ニ散策ス。夜松浦ノ部屋ニテ石井氏ノ正氣術治療ヲ受ク

十七日 晴 午後一時佐藤恒太郎来ル。殺生石迄散策ス 十八日 晴 午後一時次郎君 お糸并ニお浪サン伴ナイ来ル。

十九日 晴 昨今暑氣強クナリタレトモ八十度ヲ昇ラズ 二十日 晴 午前お巽サン お糸 佐藤ト占勝園ヨリ第一近光莊辺ヲ散歩ス 午後太田和堂夫妻萩野氏夫人部屋ヘ来ル

廿一日 晴 午後五時ヨリ旧館ノ二階廿五号ニ移ル 八畳ニ六畳ノ二室ニテ前ニ高原ヲ望ミ眺望ヨシ

廿二日 晴 午前揮毫数枚。午後恒太郎帰京ス

日 廿三日 曇 次郎君等ト湖洞園ニ遊ブ 眺望ヨシ 麦トロノ名物ヲ喰ス。土屋壮平氏ニ逢フ 宮内省ノ書記官ニテ文墨ヲ好ム 文哉ト号ス

廿四日 雨 久々ノ雨ニテ大ニ涼氣ナリ。終日依頼□〔図〕字か。〔圖〕字内側の草体に作る〕ヲ揮毫 十余枚

ス。明日発足ノコトニ決ス

廿五日 雨 午後帰京ノ途ニ上ル 三時自動車ニテ山楽ヲ発ス 次郎君一行同伴 三時五十五分黒磯発車 四時半宇都宮ニ着下車シテ共ニ寺町二行 一泊ニ決ス

廿六日 晴 朝東京青山ヨリ電話カ、リ照子又病氣之由ニテ至急帰京ヲ乞フ由 故其旨承知シ 生福寺ニ墓参シ 九時三十分宇都宮発車 十二時十分上野ニ着 直チニ青山ニ行 例ノ胃病ニテ喰物進マズ大ニ疲労セリト云フ 急変ノ様子モナケレバ 一先帰宅ス 天龍院ニ墓参シ 山田ニ立寄り 帰京後お糸ハ青山ニ残リタルヨリ電話ニテ慧一郎上京セシ由ニテ相談ノ上慶応病院ニ入院スルトセシヨシナリ

廿七日 晴 朝お糸帰宅 変リタルコトナケレトモ未ダ安心ハナラズト云フ。午後お糸ト慶応病院ニ行稍ヨシト云フ。夜閑原来

廿八日 晴曇 朝明子病院ヨリ帰り 病人大分快方ニ向ヒタル由ナリ。暑氣九十度ニ昇ル 中々勝え難し。晩方ヨリ病院見舞フ 病人大ニ見直シ血色モヨクナリタリ

廿九日 晴 稍冷氣トナル。午前十時阪正臣氏ノ告別式ニ臨ム

日三十日 曇 午前三島吉太郎 中村長安来。お糸ト山

田ニ行。大崎熊雄来。午後人見伝蔵来 靄厓ノ伝記ヲ研究ノ由ニテ種々談話アリ 大ニ冷氣トナル

三十一日 雨 久々ニテ雨降リトナル 冷氣ナリ。午後百万堂来

九月一日 晴 震災記念ノ「サイレン」十一時五十八分ニナル 黙禱スル。

二日 晴 午後小倉ト三柏ビルニ中村ヲ訪フ 共ニ電車ニテ柴又ノ帝釈天ニ参詣シ 市川ニ行キ市ノ屋ニテ晚餐ヲトリ散歩シテ帰ル

三日 晴 午後山田ニ行。木口来。照子退院シ来ル

四日 晴 午後下谷銀行ニ行 朝倉やニ立寄ル。午後八時十分東京駅発ニテ慧一郎 照子ヲ連レテ京都へ帰ル 一同送テ東京駅迄行

五日 晴 午後小倉来

日六日 晴 午後興禅護国会ノ野口惣右エ門来リ 来十三日研究会ヲ代々幡ノ鈴木氏方ニ開ク故 其節論語ノ講義ヲ依托スト 大石正巳ノ伝言トテ来ル。午前沢本孟虎ト云ヘル人 田中青山伯ノ代理ニテ坂下事件関係ニツキ相談アリ。博文堂来

七日 雨晴 午後三野村ニ行 主人病氣大ニ回復セリト云フ

八日 晴 午後中村長安来。俱樂部二行謡曲アリ 細野二行。夜小倉来。百万堂来。

九日 雨

十日 晴 山田二行。百万堂来

十一日 晴 午後三越二行 山陽遺墨展観会ヲ観ル 帰途岡崎春石ヲ訪フ

十二日 晴 風 午後お糸ト細野二行。二百二十日トテ暴風吹 木口来

十三日 晴 午後一時ヨリ校外幡ヶ谷ノ鈴木氏宅ニ行 禅学研究会アリ 大石正巳 野口惣右エ門 菅原良三郎 平井成〔二字アキ〕氏来会〔二字アキ〕氏ノ碧巖録提招〔唱〕アリ 次ニ需ニ応シテ論語ノ序説ヲ構ス。夜小倉来 十四日 晴 午前金子ト森ヶ崎ニ行 大内氏別荘ニ少憩シ 穴守ニ参詣シ翁やニ中食シテ帰ル

十五日 晴 午前中村長安来。俱樂部午餐会ニ出席 和田中将ノ満蒙ニ関スル講話アリ

十六日 曇 午前七時ヨリ廉堂并ニ木口ト浅草駅ヨリ電車ニテ上州伊勢崎ニ行 九時半着 自動車ニテ華蔵寺公園ニ行 金井烏洲翁ノ碑ヲ観ル 洪沢翁ノ文并書ニテ立派ナル碑ノ昨年建テシナリ 夫ヨリ又電車ニテ太田ニ降り 呑龍上人ニ参詣シ 金龍院裏山ニ新田義貞ノ墓ヲ拝シ 金山

ニ上リ新田神社ニ詣シ 足利ニ行 相州樓支店ニテ食事ヲ取り 五時十六分發テ帰京ス

十七日 晴 午後山田ニ行。鳥越觀世ニ能楽ヲ観ル 〔三井寺 女□女〕

十八日 晴 午後大崎熊雄来

十九日 曇 青山ノ孝三 輕症ナル腦溢血ヲ發シタリト云フ

日二十日 晴 午前お糸青山ニ行。俱樂部午餐会ニ行。鳥海来。両家金輔久々ニテ来ル

廿一日 晴 午前廉堂ト青山ハ見舞ニ行 至テ輕症ナリ 午後駒木ノ親戚 関谷与助ノ妻君告別式ニ愛宕下ヘ行。

廿二日 晴

廿三日 晴 午前中村来。午後丸柏ビルニ行 介ト東京劇場ニ行

廿四日 晴

廿五日 晴 俱樂部午餐会ニ出席ス 中達堅蔵氏ノ飛行署ノ講話アリ。午前春日井夫婦出京

廿六日 雨 午前本郷銀行ニ行。木口尚友堂来。

日廿七日 曇 午前清水芳園 福原俊丸ト共ニ来ル。菊池次郎 手束藤三郎来

廿八日 晴 河田烈君母堂死去之由 広告ヲ観テ信濃町

ノ邸ニ吊問ス

廿九日 晴雨 午前博文堂来 廉堂^(ママ)卜河〔川〕合玉堂ヲ訪フ。午後河田氏葬儀ニ谷中斎場ニ行。春日井帰名ス

三十日 晴 午前お糸ト靈能治療ニ五番町ニ行 不思議ノ靈力ニ驚ク 是ヨリ日々治療ヲ受ケルコトス。午後三栢ビルニ長安ヲ訪フ

十一月一日 晴 朝お糸ト靈能ニ行。夜三島来

二日 晴 朝靈能ニ行。夜小倉来

三日 晴 朝お糸ト靈能ニ行。中村長安^(ママ)河〔川〕村驥

山来ル。午後河田氏母堂一七日法会アリ天王寺ニ行

日 四日 雨 朝靈能ニ行 帰途青山ニ見舞フ イクラカ快方ニ向ヒタリト云フ。午後チト風邪ノ気味ナレバ山田

ニ行

五日 雨 朝靈能ニ行

六日 曇 朝靈能ニ行

七日 曇 朝靈能ニ行。夜小倉来

八日 雨 朝靈能ニ行。天龍院ニ墓参ス。午後博文堂来。

長谷来。次郎君来 愈東京ヲ引上ケ宇都宮ニ帰ルト云フ 大崎ノ家ハ春日井借り受ケ 平野氏新夫婦ヲ入レルコトトナル

九日 曇 朝靈能ニ行

十日 曇 朝靈能ニ行 帰途竹町琴平神社ニ参詣 日本橋俱樂部午餐会ニ行キ 午後菊池中將ノ満蒙ニ関スル講話アリ。中村長安来

日 十一日 晴 朝靈能ニ行

十二日 曇 朝靈能ニ行

十三日 晴 朝靈能ニ行

十四日 晴 朝靈能ニ行。廉堂京都ニ行

十五日 晴 朝靈能ニ行。俱樂部午餐会ニ行。加藤平次郎氏ノ告別式ニ深川木場ニ行。沢本猛^(ママ)〔孟〕虎来

十六日 晴 朝靈能ニ行。三味会ニツキ梅川ニ行

十七日 晴后雨 朝靈能ニ行。三味会ニ行。午後島越觀世ニ行 細田氏ノ礎ヲ觀ル

日 十八日 晴 午後三味会ニ行。午前靈能行。染井ノ

山田不老先生ノ墓ニ参詣シ 山田氏ニ行 先生ノ一週年忌〔供〕養ナリ 法会アリテ午餐ヲ饗セラル。夜梅川ニテ阪茅田先生 田辺碧堂先生ノ追善会ヲ開ク

十九日 晴 午前靈能ニ行。三野村三千代来。

二十日 晴 朝靈能ニ行。午後和歌漢詩展覽会ノ為メ白木屋ニ行 三鳥〔鳥か〕土屋 仁香保 大原等来会ス。翠松園ニ行 春日井一行ヲ招キ晚餐ヲ饗ス。高橋善十郎氏危篤ノ由電報来リ 又十一時頃電話ニテ生前面会シタキ

由申来ル 因テ自動車ニテ相生ニ向フ 一時半發 足利 板橋 浦和 大宮 上尾 熊谷ヲ經テ右折シ 忍行田 館林ヨリ足利ニ出テ曙色ヲ見ル 六時境野ニ着ス 然ル処四時ニ既ニ暝セリト云ノ残念ナリ

廿一日 晴 遺骸ニ礼拝シ家人ニ弔辭ヲ呈シ一先ツ帰京セント 自動車ニテ足利ヨリ太田ニ出テ東武鉄道ニテ十時五分發十二時十分浅草雷門ニ着 帰宅ス。次郎君来。

廿二日 晴 朝靈能二行。白木屋二行。

廿三日 晴 朝靈能二行。新宿三越二行。華族会館へ平野氏結婚式ニ〔行〕 帰宅

廿四日

日 廿五日 晴 朝靈能〔二〕行。高橋氏告別式 風邪ノ気味ニテ介代理ニ出ス

廿六日 曇 朝靈能二行。天龍院墓参。夜中山来。

廿七日 晴 朝靈能二行。午後春日井来 明日帰名スト云フ

廿八日 晴 朝靈能二行

廿九日 晴 朝靈能二行

三十日 晴 朝靈能二行。長安来 午後お糸 小倉ト高田ノ馬場ニ行

三十一日 晴 朝靈能二行。原田博文堂来。

日 十一月一日 晴 朝靈能二行。午後渋谷青淵翁大患ノ由ニツキ滝野川ノ邸ニ見舞フ 帰途浅草ニ散歩ス。三島来

二日 晴 朝靈能二行

三日 晴 朝靈能二行

四日 朝靈能二行

五日 雨 朝靈能二行。俱樂部午餐会ニ行 山川〔二字アキ〕氏ノ聯盟問題ノ講話アリ

六日 雨 朝靈能二行

七日 晴 朝靈能二行。午後竹政 小倉来。上野三宜亭ノ印材会ニ行。高橋好藏来

日 八日 晴 朝靈能二行。午後神田菅原氏禅学研究会アリ 出席 論語ヲ講ス

九日 晴 朝靈能二行。慧一〔郎〕上京ス。博文老人来 午後国華堂ニ行

十日 晴 朝靈能二行。午後酒卷氏来

十一日 晴 午前一時五十分渋谷青淵子爵九十二ノ高齢ヲ以テ終ニ逝去スト云フ。朝靈能二行。

十二日 晴 朝靈能二行 靈能治療モ既ニ四十余日継続シテ順調ニナリ 血液モ緻密ニナリ 最早再発ノ虞ナキニ至レリト云フ 是ニテ一先ヅ中止シ アトハ五六日ヲキニ

三四回調子ヲ見レバヨシトノコトナリ。夜森村来。慧^ル帰西

十三日 晴 朝散歩ス。夜小倉来

十四日 晴后雨 午後浅草橋場ニ行。博文堂来

日十五日 晴 倶楽部ノ午餐会ニ出席ス 陸軍少将西尾寿造氏ノ講話アリ。渋沢子爵ノ告別式ニ青山斎場ニ会ス。

十六日 曇夜雨 午前次郎君来。午後五時ヨリ東京会館ニ津村氏四女ノ島田氏へ結婚披露ノ宴ニ赴ク 盛会ナリ

十七日 晴 朝靈能ニ行ク 順調ナリト云フ。午後五時ヨリ三野村精一郎 八王子ノ久保田惣右エ門長女ノ結婚^ルノ披露ニテ東京会館ニ行

十八日 晴 午後博文堂老人 鷺尾義直ト共〔二〕来リ 羊石老人ノ事ニツキ種々相談アリ。お糸 小倉等ト小石川 荻荷谷 千駄ヶ谷等ノ家屋ヲ觀ル

十九日 晴 午前中村長安来。お糸 小倉ト共二日黒ノ島田氏家屋ヲ觀ル 眺望可ナレトモ少ク狹隘ナリ 自動車ニテ松沢村ノ鈴木重孝ヲ訪フ 三野村ノ知人ナリ 同地ノ旧家ニテ静寂ナル古風ノ家ナリ 晚餐ヲ饗セラル

二十日 晴 三野村ノ小児□〔月〕に〔寫〕。〔瀉〕字の誤りか〕の病氣ニテ手術ヲ要スルトテ入院スト云フ。

夜小倉来

廿一日 曇后雨 朝靈能ニ行 順調ナリト云フ。三野村小児 経過ヨシト云フ。春日井里帰リノ為メ夜十時五十分東京駅發ニテ出向ク

日廿二日 晴 朝雨上ル 六時五十分名古屋へ着ス 統子迎ニ停車場へ来ル 直チニ春日井ニ行。午後三時ヨリ名古屋ホテルニテ宴会アリ 百余人来会 四時過キ終了 名和男爵媒酌 高橋婦人 平野男爵 新郎新婦 小田男爵等ト春日井親戚等ト八事山 八勝館ニ赴キ晚餐ト饗応アリ 夜半ニ到ル

廿三日 曇雨 午前平野氏一行 呉服町へ来ル。午後児童舞踊会ニ公会堂ニ行 里枝 童謡ニ出演ス。三時五十二分發ノ燕号特急ニ乗り込ミ帰京ノ途ニ就ク 車中混雜 夜九時二十五分東京駅へ着ス 雨フリナリ〔欄外に「祭」と記載する〕

廿四日 曇 午後お糸ト山田ニ行。森村氏来

廿五日 晴 倶楽部午餐会ニ出席ス。夜三島来。竹武〔武政／竹政か〕小倉来

廿六日 晴 午前長安来 午後上野ニ散歩 泰東書道院展覽会觀ル

廿七日 晴 博文堂来

廿八日 曇雨 寒氣強ク夜初雪フル。小倉来。朝靈能ニ行

日 廿九日 晴 午後茶掛会ニ花園稲荷ニ行。三時ヨリ東京会館ニ行 土方氏婚儀披露会アリ。靈能ニ廻ル。中村茂八氏新築落成ノ祝宴ニ臨ム 白石氏等来会ス

三十日 晴 午前柚木玉邨来。午後お糸 廉堂 小倉ト麻布木村氏ノ家屋ヲ觀ル 大井町ノ庭園ヲ觀ル

十二月一日 晴夜風 午前靈能ニ行。中村長安来。近藤来

二日 晴 午後近藤来。

三日 晴 朝靈能ニ行 歸途山田ニ行。午後三柏ビルニ中村長安ヲ訪フ。夜小倉来。木口尚友堂来

四日 晴

五日 晴 倶楽部午餐会ニ出席 廉堂同伴 貴族院議員土岐子爵ノ満蒙視察談アリ。お糸ト靈能ニ行。夜小倉来リ泊ス

日 六日 晴 小倉ヲ連レテ浅草ヨリ東武線ニ乗り込ミ九時三十分發ニテ佐野ニ赴ク 十一時半着ス 古城園ト云ヘルニ木口尚友堂發企ノ書画展覽会アリ 来客多シ 万歳館ト云ヘルニ午餐ス 四時四十分歸途ニ着 七時歸京ス。次郎君来リ居ル

七日 晴 午後山田ニ行。博文堂老人来

八日 晴 午後五時ヨリ東京劇場ニ行 猿之助一座ノ満蒙事件 小栗栖兵エ等ナリ お糸同伴。夜小倉来

九日 晴 午前三千代来。古池警視庁へ呼バレタリト云フ

十日 晴 午前森村老人来。正太郎来。倶楽部午餐会ニ出席ス。浜町ノ佐藤長祐氏ノ告別式ニ行

十一日 晴雨 午前小倉来。木口尚友堂来。午後博文堂来。内閣総辭職スト云フ。夜百尺百話会ニ行

十二日 曇風 午後松坂やニ行。犬養氏組閣ノ大命ヲ拜スト云フ

日 十三日 晴風 小雪時ニ来ル。午後町田氏ノ新築落成ニツキ招カレテお糸ト赴ク 三階楼ニテ大分限[?]洋式ナリ 午餐ヲ饗セラル 歸途青山ニ廻ル 孝三病氣大ニ快氣ニ向ヒタル様子ナレトモ猶心^(マコ)〔神〕経衰弱ノ風アリ。夜小倉来ル

十四日 晴 午後上野文晁展覽会ニ行。山田ニ行。夜瀨川氏ノ義士会ニ出席ス

十五日 晴 午前中村長安来。木口来

十六日 雨 午前慧一郎 春日井ノ件ニテ上京ス。午後木口尚友堂来

十七日 晴 午前博文堂来。光畑来。北村来。小倉ト目黒ヨリ千束池辺ヲ見物ス。午後一時發ニテ慧歸京ス

十八日 晴 午前木口来。午後銀座伊東屋古本展覧会ニ行。中村長安ヲ訪フ

十九日 晴 夜俱樂部ニ活動写真ヲ看ル

日二十日 晴 午前木口来。午後町田実秀 純子ト来ル
斎藤福之助来

廿一日 晴 夜小倉来

廿二日 曇 肴町銀行ニ行。山田ニ行。

廿三日 晴 午前三千代来。午後五時ヨリ相川文五郎長男謙一郎ト繁沢藤一郎四女千枝子ト結婚披露ノ宴ニテ帝國ホテルニ行。微笑君来

廿四日 晴 午後菊池觀吾来。木口尚友堂来。博文堂老人来。夜雨。正太郎来

廿五日 晴雨 大正天皇祭。中村長安来。小倉来 共ニ牛込南町 五軒町 目黒ノ家屋ヲ觀ル 雨ニナル。夜山田ニ行〔欄外に「祭」と記載〕

廿六日 晴 午前北村来。俱樂部ノ午餐会ニ行。孝三今日来ルト云フコトナリシガ眼舞〔目眩〕ヒガスルトテ休メニナリ お纈ノミ来ル。お□〔「糸」に「良」。「浪」字の誤り〕来ル。夜中山来。博文堂来。

廿七日 晴 午前木口来。午後小倉来

廿八日 雨 午前小倉来 関口台町ニ行

廿九日 雨曇 午前博文堂来。午後上野迄行。木口来 小倉 伊藤来。夜小倉再ビ来ル

三十日 晴 午前博文堂来。小島来。午後光畑来。木口来。夜小倉 武政ト来ル

三十一日 晴 午後小倉 武政来。夜銀座ニ散歩ス

七年一月一日 晴 夜雨 例ノ如ク平穩ナル新年ヲ迎フ 午前金子来賀。奥田来。午後散歩 八幡宮ニ詣ス

二日 雨后晴 博文堂老人来賀。中村茂八来賀。午後小倉来。山田先生来賀。三野村利三郎来賀。お糸咽喉病ヲ起シ出血ス 山田氏ニ来診ヲ乞フ 一時ノ事ナルベシト云フ。高田一同来

日三日 晴 天龍院ニ墓参ス。山田ニ行。午後お纈来賀。お浪来。

四日 晴 微笑先生来賀。町田実秀 純子 実〔秀か〕春来賀。三千代子供ヲ連レテ来ル。平野政江来リ 種々談話アリ

五日 晴 午前十時ヨリ日本橋区役所ニ行 名誉職及有志ノ新年名刺交換会アリ 数十人来会ス。十一時ヨリ俱樂部新年会ニ行ク。大橋ニ拜年ス。夜小倉〔来〕

六日 晴 午後青山斎場ニ勝島仙坡ノ告別式ニ臨ム。青山ノ菊池ニ行 孝三 田端ニ行キ度しと云フ 因て幸ひ関原氏居たれ^多バ同行して田端ニ^志帰る 夜も機嫌よく一泊す
七日 晴 夜雨 七草粥例の如し。孝三加減よし 又一泊す 午後高木光教 同与八郎来賀。小倉 武政来。

八日 晴 桜田ニ不敬事件アリシト云フ。午後双三郎来。夜小倉来。孝三又一泊ス

九日 曇 孝三等青山ニ帰ル。午後上野ニ行

日 十日 晴 午前中村長安来。午後小倉来 共二目黒ヨリ伊□子ニ行

十一日 晴 お鏡開き例の如し。近藤来。小島来。上野迄行。霊能ニ行

十二日 晴 風 午後木口来。廉堂 小倉ト目黒行く[?] 坂上ノ河浦氏ノ邸宅ヲ看ル

十三日 晴 午後次郎君来。夜百話会ニ出席ス

十四日 晴 阪卷氏来。午後白木屋ノ古書展覽会ニ行。夜瀬川氏ノ新年会ニ出席ス

十五日 晴 坂下事件ノ七十年ニツキ千住回向院ニ参詣ス 倶楽部午餐会出席ス

十六日 晴 雨 木口来

日 十七日 晴 午前木内淇堂 頼成一氏ヲ伴ナヒ来ル

芸州ノ頼家ヲ^(マ)統〔継〕キシ人ニテ目下高等学校ノ教員ナリト云フ 聿庵ノ子孫ナリ 午後小倉 武政来。近藤来。町田夫人 純子ト来ル

十八日 曇

十九日 晴 午前お糸ト霊能ニ行 帰途上野ニ廻ル。午後東敬治氏来。観吾来。博文堂老人来。山田行

二十日 晴 倶楽部午餐会ニ行 大藏省参与官 太田正孝氏ノ講話アリ。小倉 武政来。金子来

廿一日 晴 午前博文堂来。竹内来。午後お糸ト町田ト青山ニ行 夜二入テ帰ル。議会解散トナル

廿二日 晴 午後信用組合ノ会ニテ日本橋区役所ニ行 三柏ビルニ廻ル 驥山 蕪州等来会ス

廿三日 曇 雨 午後倶楽部ニ行 謡曲会アリ 織雄氏来ル 星野与兵エ氏ノ鉢木ノ開キアリ 難波屋ニテ晚餐ヲ饗セラル

日 廿四日 晴 午後九時半浅草発ニテ足利ニ行 中村小倉同行 同地共益会館ニテ艸雲ノ展覽会アリ 尚友堂ノ主催ナリ 足利ノ諸氏ニ逢フ 相州楼ニテ午餐ス 夜二入テ帰ル 温暖春ノ如シ

廿五日 晴 午前中村茂八氏ヲ訪フ。霊能ニ行。倶楽部午餐会ニ行。大住氏ヲ訪フ

廿六日 晴 博文堂 近藤来 犬養木堂老へ祝賀品送呈ス。午後お糸ト歌舞〔伎〕座二行「勿来関」「石切梶原」「船弁慶」「小猿七之助」等アリ

廿七日 晴 お糸ト靈能二行。午後三千代来。

廿八日 晴 午前中村長安来。午後山田二行 丸善二行

廿九日 晴 午後区役所二行 信用組合総会アリ。三柏
(ママ) エ文墨洞ヲ訪フ

三十日 晴 午後廉堂ト浅草二行「トレード」〔トレイ
ダ〕ホーン」ト云ヘル活動映画ヲ観ル 阿非利加蛮地ノ
有様ナリ

日 卅一日 晴 午前五時前急ニ腎臓炎ヲ発病ス 向野医
師来診ス。靈能ノ伊沢氏来ル。山田氏来診ス

二月一日 晴 臥床。山田来

二日 晴 臥床。慧一郎来京ス

三日 晴 臥床。山田来

四日 晴 臥床。午後山田来診。節分ニテ豆マキス

五日 曇 臥床。午後中村長安来。夜山田来診

六日 晴 臥床。博文堂来。午後伊沢靈能来。山田来。

夜小倉来

日 七日 晴 臥床。午後町田実秀来。関原来。栗本伸

子去月廿九日大阪ニテ死去之由通知来。小島来

八日 晴 臥床。午後木口尚友堂来。

九日 晴 曇 臥床。午後小島来。小倉来。夜山田来診。

十日 雪 曇 臥床。今冬ハ異常ノ暖氣ニテ各地ニ雪ナリ

シガ此ノ立春ヨリ却テ寒氣加ハリ昨夜ヨリ降雪寸余アリ
昨夜八時過本郷肴町傍ニテ前蔵相井上氏暴漢ニ射殺
サレタリト云フ。午後三千代来

十一日 晴 臥床。午前関原来。小堀ヲ清水□翁ノ墓参
ニ遣ハス。正太郎来。

十二日 晴 今日ヨリ離床ス。春日井丈右〔エ〕門上京
ス。微笑翁来

十三日 晴 竹内来。午後小倉来。松坂屋へ理髪二行

日 十四日 曇 雨 午後一時本郷源光寺ニ柳田泰麓君ノ
告別式二行。禅学研究会ニ菅原氏二行キ論語ヲ講ス。帰
途山田ニ立寄ル。最賀虎雄来

十五日 晴 夜雨 倶楽部午餐会ニ出席ス 猿之助ノ講話
アリ 靈能二行。中村長安来

十六日 晴 北村来。午後木口来。小島来。古池来

十七日 晴 午前高橋好造来。午後古池来。小島来。夜
小倉来。此日下腹部ニ痛ミヲ覺ヘタレバ山田氏ニ来診ヲ
乞フ

十八日 晴 午前古池来。午後靈能二行。小島来。小倉

来

十九日 晴 午後山田二行。古池来

二十日 晴 午前久吉来。午後小島来。

日 廿一日 曇 午後小島来。小倉来。夜中村長安来。

廿二日 晴 午後山田二行。文墨堂〔洞〕ト三味会事務所ヲ銀座ノ交詢社二階ニ設ケ今日開業ノ由ニツキ行キ見ル

廿三日 晴 午前関原来 温飽治療ヲナス。久吉来。夜小倉来。二十日ノ総選挙ノ結果政友会大多数 三百余ト云フ

廿四日 晴 午前関原来 博文堂来。小島来。小〔古か〕池来。

廿五日 曇雪 午前関原来。趙氏来。倶楽部午餐会ニ行南大将 前陸軍大臣 満蒙上海事件ニ関スル講演アリ 廉堂同行ス。久々ノ大雪ニテ夜ニ入テヤマズ

廿六日 曇晴 昨日来の降雪積リ五六寸。午後博文堂来廿七日 晴 午前靈能ニ行 午後古池来。夜小倉来

日 廿八日 晴 午後山田二行。木口来

廿九日 晴 午前関原来 午後小倉来 共ニ富士見町 目黒ノ家屋ヲ觀ル

三月一日 晴 今日 満蒙新国家整〔成〕立 満洲国ト

称シ 大同元年トナルト云フ。午後林文昭来。古池来。午前靈能ニ行 黒門町安田ニ廻ル。藤井永正来「伊沢ノ件」

二日 曇 午後小倉来 共ニ今里町 大井ノ家屋ヲ觀ル。午前西江戸町ニ行矢野氏ノ治療ヲ受ケ

三日 晴 午前金子来。午後お糸介 金子等ト十条村ヨリ王子辺ニ行。小倉来。豊二四、〇〇〇、送金ス

四日 晴 午後品川エ行 南町ノ重松氏ノ家屋ヲ觀ル

五日 晴 倶楽部ノ午餐会ニ出席ス。柳光亭ニ行 和田中将ノ満蒙ニ関スル講話ヲ聴ク。山田二行

日 六日 晴 午後酒卷氏来リ移転ニツキ相談ス 吉方ナシト云フ

七日 晴雨 午前矢野氏ニ行キ射血療法ヲ行フ。靈能ニ行。夜兎玉 小倉来

八日 晴 午前宇都宮 北村来。次郎君来。古池来。午後小倉来。菊屋来

九日 晴風 午前古池来。関原来。午後菊池来

十日 晴 昨日満洲国執政ニ前宣統帝ヲ推戴シ都ヲ長春ニ定メ建国祭ヲ執行セリト云フ 午後相川文五郎来。介ヲ伴ナヒテ目黒ノ雅叙園ニ行ク 十竹会記念会ヲ開ク 白石、伊藤、秋庭、岡本、藤井、小菅、淡島、宮入、宮崎、

等来会ス。小倉来

十一日 晴 午前関原来。河田貫堂先生三十三回忌法会アリ 介二郎ヲ代理ニ遣ハス 天王寺〔以後記載なし〕

十二日 晴雨 午前矢野氏ニ行ク。午後博文堂老人〔二字アキ〕来。小倉来。百尺ノ百話会ニ出席ス

日十三日 晴 午前小林安右〔エ〕門来リ 雲坪ノ幅ヲ持参ス。木口尚友堂来。午後禅学研究会ニ麟祥院ニ行論語ヲ講ス

十四日 晴 午前博文堂来。午後靈能ニ行。青山ニ行 孝三病氣不相慶ノ由ナリ。小倉 伊藤来

十五日 晴 午前沢本江南来 遺墨十三点余と書籍ヲ貸シ出ス 倶楽部午餐会ニ行 星野桂吾氏ノ満蒙ノ近況講話アリ。大住氏ヲ訪フ。文墨洞ニ行。山田ニ行

十六日 晴 午前中村長安来。河〔川〕^(マ)村驥山来。

十七日 晴 午前矢野氏ニ行。靈能ニ行。夜武政 小倉来。伊藤長三郎来

十八日 晴 午前谷中養寿院ニ行 住職篠原亮静師ヲ乞ヒ青山墓地ニ行 鳥嶋遭難記念碑前ニテ栗本克巳ノ追善読経ヲナス お糸同行ス。麴町〔上〕六番町五番地ノ家屋ヲ觀ル 慧一郎住居ニ適當ト認メ借りルコトニ決ス。午後觀世会ノ能ヲ觀ル 織雄 角田川

十九日 晴 午後木口来。三時ヨリお糸ト東京劇場ニ行 幸四郎 猿之助等ノ一座ニテ「西郷ノ首」「二人袴」「一字アキ」等アリ

日二十日 晴 午後近藤来。夜 介 小倉ト倶楽部ニ行「国難」ノ映画ヲ觀ル。

廿一日 晴 午前八時お糸 介二郎同行 千住回向院ニ行 坂下事件烈士七十年記念墓前祭執行 田中伯爵 頭山満翁 其他有志 遺族等多数来会ス 終テ九段靖国神社ニテ慰靈祭執行 午後青山会馆ニテ講演会 遺墨展覽会アリ 藤井甚太郎 徳富蘊峯ノ講演アリ 来会者数百人 盛大ナルコトナリ〔欄外に「祭」と記載する〕

廿二日 晴 午前矢野氏ニ行。倶楽部午餐会ニ行。午後五時ヨリ難波屋ニ相川文五郎 大住吉左右エ門氏ヲ招ク

廿三日 晴雨 午後日本橋区役所ニ行。麟祥院ニ行 興禅護国会ノ大徹老師ノ法会アリ 霄絶学老師ノ提唱アリ 絶学ハ東禅寺ノ和尚ナリ。博文堂老人来。

廿四日 晴 木口尚友堂来 午後麟祥院ニ行 絶学師ノ碧巖録提唱アリ 終テ東京駅ホテルニテ大石老人ノ發企ニテ晚餐会ヲ開ク 絶学師ヲ正客トシテ三宅雪嶺 本多熊太郎等ヲ初メ数十人来会ス

廿五日 晴 倶楽部ノ午餐会ニ行 印度人リホンシンギ

氏ノ印度ノ現状ノ講話アリ。山田二行。夜木口来

廿六日 晴 午後日本橋区役所ニ行 優良児童表彰会アリ 信用組合役員会アリ。銀座交謁^(マツ)〔詢〕社ニ行 三畝氏来。靈能ニ廻ル

日 廿七日 晴風 午後池田氏ノ法事 校外千歳烏山ノ幸龍寺ニテ執行ノ由ニツキ お糸ヲ遣ハス。町田実秀夫婦 秀春ヲツレテ来ル。谷口一郎来。水野了石来。強風終夜 フク

廿八日 晴風雨 午後五時ヨリ東京会館ニ行 大住氏ノ次女池貝氏ト結婚シ披露ノ宴アリ

廿九日 晴 午前博文堂来。小島来。夜小倉来。

三十日 晴 午後松阪屋ニ行。廿八日西沢善七氏死去スト云フ

三十一日 晴 午前中村長安来。沢本江南来。北村金子 光畑来。高橋善十郎来。木内来。

四月一日 晴 午前十時浅草本願寺ニ行西沢氏ノ葬儀ニ会ス。午後博文堂来。

二日 晴 午前矢野氏ニ行ク。靈能ニ行。午後小倉来。

日 三日 晴 午前天龍院墓参ス。山田二行。夜関原来。

佐藤恒太郎ニ連レラレテ 庸子京都ヨリ帰京ス

四日 晴 午前木口来。午後小倉来。博文堂来

五日 晴 俱樂部午餐会ニ行 伊藤仁太郎氏ノ上海事情ノ講話アリ。午後小倉来。夜金子来。

六日 晴 午前お糸 金子ト上総ノ三門ニ遊バント 十時 両国駅発車 千葉 蕪我 大綱 一ノ宮 長者町等ヲ過キテ 午後一時三門駅ニ着ス 数丁ニシテ海岸。早川小三郎宅ニ行ク 閑寂ナル海岸ニテ右ニ浜ノ岬ヲ望ミ 左ハ大東岬 前ハ太平洋ニ面シ眺望壮快ナリ 処々徘徊少憩ノ後 辞シテ三時十九分発ニテ帰途ニツキ 六時両国ニ着ス 此日 二曇タレトモ温暖ニテ沿道菜花□〔サ〕に〔麦〕。〔麦〕字の誤り」 隴春色ヲ呈シ桃花 桜花盛クシテ一日ノ行遊 大ニ快意ナリ

七日 晴 午前関原来。中村長安来。森村家ヲ訪フ 不在ナリ。午後介二郎朝鮮ノ金剛山ニ遊セント 夜八時 東京駅ヨリ出発ス。安部止水来

八日 雨 午後森村竹軒来。夜吉野信一郎来。

九日 晴 午後白木屋ノ古書展覧会ニ行。小倉来

日 十日 晴風 高橋光威氏 昨九日午前五時[?]逗子別荘ニテ死去セリト云フ 十二日青山ニテ告別式ノ由可惜。午後二時山口憲妻君ノ告別式ニ谷中安立院ニ行。山田ニ立 寄ル。正太郎来

十一日 晴 午前京都ヨリ慧一郎夫婦子供二人引連レ来

着午後麴町上六番町五番地ノ宅ニ引移ル之ヨリ東京ニ住スルコトニ決ス。博文堂老人来。午後上六番町ノ宅ニ行 靈能ニ廻ル

十二日 雨 午後三時青山齋場ニ高橋雄峯君ノ告別式ニ臨ム。番町ニ立寄ル

十三日 晴 午後北村来。白石ノ親戚 木村源兵エノ告別式ニ駒込林町ニ行。六時百尺ノ百話会ニ出席ス

十四日 晴 早朝 田端脳病院ヨリ火災起リ五六軒ニテヤム。午前慧一郎子供等ト来ル。高橋善十郎来

十五日 曇雨 午前矢野氏ニ行。俱樂部ノ午餐会ニ出席ス 田中貢氏ノ「再禁後ノ経済界」ノ講話アリ

十六日 晴 午前齒科三上氏ニ行。午後品川三木ニ安部止水ヲ訪フ

日 十七日 晴 午前三上氏ニ行。

十八日 晴 俱樂部ノ午餐会ニ行 前田商工大臣ノ演説アリ 帰途松阪ヤニ立寄ル。三上ニ行

十九日 晴 午後三上氏ニ行。番町ニ行 帰途慧共ニ来ル 夜慧ヨリ高田ノ件ニツキ相談アリ 善後ノ事ハ慧ニ一任スルコトトナス

二十日 晴 午後斎藤幸塲ノ未亡人遺物ヲ携ヘテ来ル。木口尚友堂来。お糸ト山田ニ行。近藤来

廿一日 晴 午後三上ニ行。

廿二日 晴 午前上野駅ヨリ三上ニ廻ル 不在ナリ

廿三日 晴 宇都宮ニ行カント 午前八時二十分慧ト上野発車 十時宇都宮着 次郎氏ヲ訪フ 午餐ヲ饗セラル 午後共ニ商工会議所ニ史談会開催ノ坂下事件七十年ノ記念講演会并ニ志士遺墨展観会アリ 藤井甚太郎氏ノ講演アリ 遺墨数十点中々ノ盛会アリ 五時七分発ニテ帰京ス

日 廿四日 雨 夜小倉来

廿五日 曇風 午前三上ニ行。俱樂部ノ午餐会出席 独逸人「ウキルヘルム、グンベルト」ノ講話アリ。帰途文墨洞ニ立寄ル

廿六日 晴 午後堀留後援会ニ行 夜エンプレスニ阿部署長ヲ招ク

廿七日 晴 午前三上ニ行。午後お糸ト靈能ニ行 帰途松坂屋ニ立寄ル。博文堂来。夜小倉来。

廿八日 晴 午前三上ニ行。慧一郎来。午後菊屋来

廿九日 晴 (欄外に「天長節」と記載する)

三十日 晴 午前中村長安来。関原来。正太郎来

日 五月一日 晴 夜犬養首相「ラジホ」(ママ)「ヲ」アリ

二日 晴

三日 晴 午前菊屋来。午後慧一郎来

四日 晴 午後木口来。菊屋来。六時ヨリ春秋会ニ亀清二行 藤沼東京府知事 下条賞勲局総裁ヲ招待ス 数十人来会。夜小倉来。木口来。

五日 晴 倶楽部午餐会ニ行 勝田氏ノ講話アリ 帰途文墨洞ニ立寄ル □□河原ニ遇フ

六日 曇風 午前博文堂来。安部止水来。午後小倉来共ニ入谷ノ本多ニ行。

七日 晴 午後千代田ビル古書展観会ニ行。

日 八日 晴風 午前金子来 此程小笠原島ヲ一覽シ来タリト云フ 種々珍談アリ。伊沢毅一郎来。夜菊屋来

九日 晴 午前斎藤未亡人来。三千代来

拾日 晴 倶楽部午餐会ニ出席ス。番町ニ行。山田ニ行

十一日 晴

十二日 雨 午前関原来。沼尻文治来。午后菊屋来

十三日 晴 午前次郎来 千葉県ノ観音参詣ヲ為シタリト云フ。午後交詢社文墨洞ニ行 明日ヨリ羊石遺墨展覽会開催ノ準備ニテ博文堂等来リ大混雑ナリ。百尺ノ百話会ニ出席ス

十四日 晴 午前文墨洞羊石遺墨展覽会ニ行 川崎氏 広部氏 新井洞巖ヲ初メ知人其他二百余人来観 皆其作ニ驚ク 午後遺族等来共ニ撮影ス

日 十五日 晴 午前お糸ト観世舞台ニ行 細田「若」青木久吉等ノ通小町ノ素謡ヲ聞ク 細田ノ蟻通能ヲ観ル 銀座ノ松屋ニテ午餐シ交詢社羊石会ニ行 来観者多数アリ 牛込末吉ノ驥山□「書」字か」会ニ廻リテ帰宅ス 忽チ飛報アリ 今日午後五時頃ヨリ陸海軍ノ正服ヲ着ケタル暴漢 政友会本部 牧野内府邸 警視庁等へ手榴彈ヲ投シ 一部ハ犬養首相ノ官邸ヲ襲ヒ首相ヲピストルニテ負傷セシメ投^(ママ)「逃」走シタリト云フ

十六日 晴 首相ハ昨夜十一時二十分遂ニ絶命セリト云フ 何等暴挙ゾ 何等ノ悲惨ゾ 苟モ軍人ノ正服シタルモノ 白昼堂々ト帝都ヲ荒ラシ首相ヲ暗殺スルニ至ル 思想ノ荒敗^(ママ)「廢」驚クニ堪ヘタリ 嗚呼 倶楽部ノ午餐会ニ行 安藤正純ノ講話アル筈ナリシガ昨夜ノ変ニテ講話ハ他日ニ譲リ首相ノ変ニツキ談話アリ。山田ニ行

十七日 晴 午前矢野氏ニ行。天王寺ニ墓参ス 午後北村来。高橋善十郎来。

十八日 晴 午後森村老人来

十九日 晴 午後柚木玉村 久我早苗来。永田町首相官邸へ犬養翁告別式ニ参列ス。文墨洞ニヨル

二十日 晴風 午前関原来。微笑先生来。倶楽部午餐会ニ行。博文堂老人 同悟郎^(ママ)「朗」来。夜沼尻来

廿一日晴雨 午後高橋善十郎来。午前ブラジル大使林久治郎ヲ訪フ

日廿二日曇 午前お糸ト靈能ニ行。番町ニ廻リ午後帰ル

廿三日晴雨 斎藤実氏ニ組閣ノ命下ルト云フ。午後博文堂内海老人ト来ル

廿四日晴

廿五日晴雨 倶楽部午餐会ニ行 佐々弘雄氏ノフアツシズム^{（ママ）}「ファシズム」ノ話アリ。午後正太郎来

廿六日晴風 斎藤内閣組閣ニ難シキタルモ 略左ノ如ク決定セリト云フ 総理斎藤 内務山本達雄 大藏高橋 海軍岡田啓介 司法小山松吉 文部鳩山一郎 農林後藤文夫 商工中島久万吉 通信南弘 鉄道三土忠造 拓務永井柳太郎 外務陸軍ハ未決ナリ。午前博文堂来。午後白木屋ニ行 東洋文具展覧会ヲ觀ル 名硯ノ出品多シ 丸ビルニ行 柳溪ノ車切会ヲ觀て文墨洞ニ行

廿七日晴 午前中村長安来。外務ハ首相兼任 陸軍ハ荒木氏留任ニテ内閣決定 昨日午後親任式アリテ組閣成就セリト云フ。銀座ニ古書展覧会ニ行

廿八日晴雨 午前三千代来。倶楽部ニ行 総会アリ 午後お糸ト美術倶楽部ニ艸雲展覧会ヲ觀ル

廿九日曇 午後松坂屋ニ行。独活先生ノ三年祭ニテ瀬川氏ニ行 三昧会連中数人来会ス

三十日晴

卅一日晴

六月一日雨 那須ニ一遊セント お糸慧一郎 佐藤恒ヲ連レ 午前九時十分上野駅発車ス 十二時二十分黒磯駅ニ着ス 山樂ヨリ迎ヒ来リ 直チニ自動車ニテ新那須ニ向フ 途中道路普請ニテ迂廻シ 一時山樂ニ着ス 雨漸ク歇ム

二日晴 □「足」に「奠」。「躑」字の誤り」 躑花ヲ觀ント 山ニ向フ 駕籠ヲ一丁傭ヒテ□レ御用邸ノ後山ヨリ黒木沢ヲ超エ躑躅ノ岡ヨリ一軒家等ニ出ヅ 今年ハ氣候不順ノ為メ花期後レ未ダ満開ニ至ラズト云フ 澄空亭ト云ヘル御小休ノ所ヲ経テ八幡温泉ニ至リ小憩ス 眺望殊ニヨシ 又一山超エテ大丸温泉ニ上ル 小憩午餐ヲ取ル 此処ノ後山ヨリ温泉多量ニ湧出シ御用邸ヨリ近光荘全体 山樂等皆此処ヨリ引湯スト云フ 餘分ハ河ヲナシテ流レ居リ 実ニ^{（ママ）}「稀」有ノ地ナリ 曾テ乃木將軍之ヲ愛シ年々来遊セラレシトテ私用セラレシ一室ノ故跡アリ 是ヨリ山ヲ下リ殺生石ニ出テ、帰ル 一日ノ清遊大ニ気分ヲヨクス

三日 曇后雨 鵲語鶯声終日ウルサキ程ナリ。午前湯本ヨリ湖月園ニ散歩ス。午後帰京セント 四時自動車ニテ発ス 雨降り出ス 五時十四分黒磯ヲ発ス 八時十分上野着 帰宅ス

四日 雨 午前竹内康二来 大阪ニ行ト云フ。午後お糸ト山田氏ニ行。東正堂来。森邨竹軒来

五日 雨 午前 島谷八十八来 岩国ノ人ニテ東氏ノ知人 今ハ神戸ニ住シ 朝鮮ニ農業ヲ営ム由ナリ 書画好キニテ数幅持参 鑑定ヲ乞フ。午後毎夕新聞ノ野口棊来。小倉来。

六日 曇雨 午前島谷氏来。倶楽部午餐会ニ行 直木三十五氏ノ「上海戦跡ニ就テ」ノ講話アリ。白木屋ノ古書展覧会ニ行。慧一郎来

七日 雨 午後松阪屋ニ行。

八日 晴

九日 晴 午前嶋谷氏来。午後白木屋ノ古本会ニ行。夜中村長安来

十日 晴 午後お糸ト靈能ニ行。博文堂来。倶楽部午餐会ニ行。

十一日 晴 午前博文堂来 黄端本ノ巻物持参ス。午後木口尚友堂来。慧一郎来

日 十二日 晴 午後菅原氏宅ノ研究会ニ行。

十三日 晴 午前春日井来 昨日政代ノ件ニテ上京スト云フ 午後山田ニ行

十四日 晴雨 午前博文堂来

十五日 晴 倶楽部午餐会ニ行 堀越善重郎ノ「二」米国ノ近情」勝田氏ノ幣価切下ノ話等アリ

十六日 雨 午後二時半東京ホテルノ町田 林両家ノ婚姻式ニ参列ス 六時ヨリ披露ノ宴アリ。曾田来

十七日 晴夜雨 午前矢野氏ニ行。

十八日 雨晴 午前中村長安来。森村竹軒来。博文堂来 日 十九日 晴 午前長安来。小島来。午後小倉来

二十日 晴 午後関原来。倶楽部午餐会ニ行 帰途三越ニ立寄ル。正太郎来

廿一日 晴雨 午後木口尚友堂来。小倉来

廿二日 晴 午前お糸ト靈能ニ行。午後両家来。

廿三日 晴 午前博文堂老人来。

廿四日 晴 午後山田ニ行。竹政、駒沢辰明 茂原市三郎ヲ連レテ来ル 赤倉温泉ノ事ナリ

廿五日 晴 倶楽部ノ午餐会ニ行キ□藤小治氏ノ経済ニ関スル講話アリ。経政院様十三年法会ヲ繰リ上ケ明日執行ニツキ速夜^(マ)ノル祭りヲスル 中山季丸来読経 お供慧

一郎等来会ス。午前交詢社文墨洞ニテ三昧会ヲ開ク

廿六日 晴 午前九時天龍院ニ行 経政院様十三年忌法
用〔要〕報〔執〕行 端吾廿七年 京煙童女一週年忌□□

執行 親戚故旧三十余人来会 終了後山下翠松園ニテ午餐
ヲ饗ス。青山ニ行 孝三少シハ善キ様ナレトモ大シタ変
リナシ。麻布町田ニ行 園子ノ里帰り祝宴アリ 林氏其外
数人来会アリ

廿七日 晴 午前関原来。午後木口尚友堂来

廿八日 晴

廿九日 晴 午前慧一郎来。午後豊ノ件ニテ竹町事務所
ニ行。豊ニ帰国スベシト電報ヲ発ス

三十日 晴 中村〔長〕安来

七月一日 曇雨 豊ヨリ電報来リ 二日リオヲ出発帰途
ニ上ルト云フ。午後博文堂老人来話。

二日 雨風 午後山田ニ行。

三日 午後五時大住氏ニ招カレテ呉服町難波屋ニ行 晩
餐ヲ供セラル 大住夫婦及お糸同伴

四日 晴 午前お糸ト霊能ニ行。午後文墨洞ヘ行 三畝
君ニ逢フ。小倉来

五日 晴 倶楽部午餐会ニ行 平田晋策氏ノ日米露若シ
戦ハミト云ヘル講話アリ。丸ビルニ行。お糸咽喉ヨリ少

量出血アリ 河野氏来診。夜慧来

六日 晴雨 午前博文堂来。安藤来。夜小倉来。

七日 曇雨 午後三時ヨリ日本橋奨兵義会ノ主催デ明治
座ニ於テ凱旋将士歓迎会ヲ催ス 夫々ノ式アリテ五時ヨ
リ演劇アリ 曾我ノ家 五郎一座ニテ数幕アリ 今日溽暑
非常ナリ。夜小倉来

八日 晴雨 暑強シ。午後五時百尺百話会ニ行

九日 晴 午前博文堂来。午後文墨洞ヨリ守尾ニ行

日 十日 晴 午前森村老人来。観吾来。午後中村茂八

来。大住精一來。白石徳三郎来

十一日 曇晴 午前矢野氏ニ行。午後文墨洞ニ行。小倉

来

十二日 晴 午前錢婆ノ案内ニテお糸ト江東亀有村ノ中
風マデナヒノ灸点ニ行

十三日 晴 午後山田ニ行。驟雨一過有雷鳴。森村老人

来。夜小倉来

十四日 晴 中村長安来

十五日 雨 倶楽部午餐会ニ行 丸山鶴吉氏ノ警察ニ関
スル講話アリ。

十六日 曇雨 午後中山米丸来。山本寸艸来。木口尚友
堂来

日十七日 曇 午後二時半三野村日光へ避暑ニ出カケ^可ルト云フ 久々ニテ面会セント 上野停車場ニ送ル 大分ヨシトイヘトモナントナク「ボンヤリ」ニミユ。慧一郎一家来ル。小倉来。夜お糸名古屋ニ行カント梅ヤヲツレテ十時五十分東京駅ヨリ発足ス

十八日 曇 午後博文堂来。慧一郎来。町田実秀 純子ト来ル。

十九日 晴 磯野靈山十七日死去之通知来 惜シムベシ。午後一時ヨリ校外和田堀□寺ニ行 三時ヨリ靈山ノ葬儀執行 瀬川 中村 坂井 「二字アキ、「ナクス」とルビを振る」大出等旧友来会 痛切ナル吊詞等アリ余ハ^者

我モ亦やかて行身そ其節ハ案内頼む極樂の道と靈前ニ^多たむけぬ。夜お糸名古屋ヨリ帰る

二十日 晴 午前慧一郎来。午後山田ニ行。十八日外山弥助氏死去之由通知来 氣の毒ノ事ナリ

廿一日 晴 午後外山氏告别式ニ浅草本願寺ニ行。余リ暑ニ堪えかねて明日那須ニ避暑する事ニ決セリ。夜慧一郎来

廿二日 晴 午前九時二十分上野ヲ発ス 同行お糸 素子 庸子 政子 佐藤ト共二十二時過黒磯着 車中も中々アツシ直チニ自動車ニテ新那須山樂ニ行 サスガニ山氣清涼

蕪生ノ想アリ 鶯語鵲声旧友ノ如シ

廿三日 晴 早起朝氣人ヲ襲フ 快甚シ 朝夕八七十度位ニテ 冷氣ヲ感スレトモ日中ハ八十三度ニ昇リ中々暑熱アリ。

日廿四日 晴 午前細田氏夫妻尋ね来る^祿 此ノ下ノ近光莊第二へ別荘ヲ買ヒ受ケ昨日来レリト云フ 東京ハ非常ノ炎暑ナリト云フ。東京ヨリ電報ニテ春日井出藥セシニ付キお糸ニ帰京サ「セ」タシトノコトニ[「]午後五時ノ汽車ニテお糸帰京ノコトニ決シ 素子モ子供等ヲ連レテ同行ス。太田氏来ル

廿五日 晴 暑くケレド稍凌キヨシ 日中八十五六度

廿六日 清風除来リ 大二凌キヨシ 朝七十度 日中八十三度。午後細田氏来 津村氏 遠山氏 斎藤氏等来ル。東京ヨリ端書来ル 春日井ノ件モト「ウ」ヤラ出^(ママ)「片か」付キシ由ナリ

廿七日 晴 朝冷氣人ヲ襲フ 六十六度ナリ。細田氏の別荘静翠荘ヲ訪問フ 幽邃ニシテ楼上眺望ヨシ。午後お糸帰り来る 久吉并ニ町田実秀夫婦 秀春ヲ連レテ同行ス

廿八日 晴 久吉 大丸熾火に辺ヲ見物ニ出カケル^可。午後久吉帰京ス 佐藤モ共ニ帰京ス。雷鳴小雨アリ 天皇陛下来月一日御用邸へ行幸ノ由ニ決定ト云フ。

廿九日晴 天候同様。町田実秀一時東京ニ用事アリテ
帰ル。午後秀春発熱ス 夜医者ヲ呼ブ 少々咽喉ヲ侵サレ
タリト云フ

三十日晴 秀春快方ニ向フ。福島甲子来ル。那須屋主
人箭内来ル。

日卅一日晴 実秀再ビ来ル 東京ハ非常ノ暑氣ニテ
一同アヘギ居ルト云フ。小倉 竹政ト共ニ来ル 滝ヘ廻ル
ト云ウテ去ル。

八月一日 晴雨 遠山市郎兵エ氏急ニ帰京ス。

今日陛下行幸 十一時五十分無事御用邸へ御到着ト云
フ。内務大臣山本達雄来ル 久々ニテ面会ス。内藤三郎
ニ逢フ。晩方ヨリ雨降り出テ涼氣増ス

二日 晴 朝六十八度 日中八十度。所々端書出ス

三日 晴 八十度ニ升ラズ。晩方ヨリ非常ノ霧カヽル。
福島氏ヨリ依頼ノ画ヲ描キ贈ル

四日 晴 朝霧茫々タリ。午後足利ノ萩野夫妻来。

五日 晴 慧一 郎子供等ヲツレテ逗子ニ赴キシト云フ。
本田教運ニ書簡出ス。夜風強ク霧ヲ吹払フ

六日 曇 南方拭フ如ク霽レ度リ諸山分明筑波ヲ望ムヲ
得。午後雨降り来ル。冷氣六十七度位ナリ。五時半小倉
来ル 東京ハ猶暑氣強ク九十二三度ナリト云フ

日七日 晴 朝霧カヽル。今日帰京ノ積リニテ色々準
備スル。午後四時頃ヨリ山雨降り来ル 同三十分雨中出
立ツ 黒磯ニ到レバ雨ノ氣ナシ 五時十四分ノ準急ニ乗ル
八時十分上野着 風アリテ意想外ニ涼シ

八日 晴 八十度ナレド意外ニ涼氣ナリ 有難キ事ナリ。
午前中村長安来 天王寺天龍院ニ墓参シテ山田ニ行 お纈
来ル 青山同様ナリト云フ。日中八十七度

九日 晴 風アリテ涼シ。午後松阪屋ニ行。朝関原来
豊ヨリ電報ニテ十一日午後七時横浜入港ト云フ 夜小倉
来

十日 晴 倶楽部午餐会ニ行。午後矢野氏ニ行

十一日 晴 風 豊今晚帰朝ノ由ニテお糸 正太郎 明子
小堀其外出迎ノ為メ横浜ニ行。午後九時東京駅ニ行 豊
無事帰国 青山 三野村 町田等出迎ノ者一同ト来ル 少憩
シテ帰宅ス

十二日 晴 風 午後慧一郎一同来。三野村三千代子供ト
来ル 内海老婦人書棚ヲ持参ス

十三日 晴 午後町田実秀夫婦来。お纈来。朝中村長安
来

日十四日 晴

十五日 晴 午前山田ニ行。倶楽部午餐会ニ行 伊藤癡

遊ノ書簡アリ 觀タル木堂翁ノ講話アリ

十六日 雨曇 久々ニテ雨ふる。午後春日井統子出京ス。

十七日 晴 稍冷氣トナル 朝六十七度 日中八十五度。

午後小倉来

十八日 晴曇 夜小倉来。冷氣ナリ

十九日 曇

二十日 晴風 午前博文堂来。俱樂部午餐会ニ行。夜小倉来。正太郎来

日 二十一日 晴風 午前中村長安来。午後一時四十分 発ニテ統子名古屋へ歸ル 小堀ヲ送り遣ハス。

廿二日 晴雨 夜小倉来。豊逗子へ行

廿三日 晴 午後山本寸艸来。中村長安来。木口来。豊

逗子ヨリ歸る

廿四日 晴雨 午前木口来。正太郎来。内海老婦来。

廿五日 曇 午前山田ニ行。俱樂部午餐会ニ行。

廿六日 晴曇 午前天龍院ニ行 修軒ノ廿七年忌ニテ法会アリ。午後慧一郎一同来ル。夜廉堂大連ヲ出發セシ由 電報来。小倉来

廿七日 曇 逗子ニ一遊セント正太郎ヲ伴ナイ十時過出 発 電車ニテ正午頃逗子ニツク 慧子供ヲツレテ停車場迄 迎ヒ 新宿ノ千葉ト云フ家ニツク 小雨アリ 午後海岸散

歩 桜山ノ別荘ニ到ル 四時頃ヨリ帰途ヲ湘南電車ニトリ 金沢 杉田辺ヲ過キテ横浜ニ出ヅ 五時過キ帰宅ス 一日 ノ清遊ナリ

日 廿八日 雨曇 夜小倉来 お糸 豊等ト隅田公園ニド ライブシ国技館ニ満洲展覽会ヲ觀ル

廿九日 晴 午後松坂屋ニ行。

三十日 晴

三十一日 晴 廉堂廿八日大阪ニ着シ 本日飛行機ニテ 羽田ノ飛行場ニ午後二時頃着ノ由ニテお糸初メ一同迎ニ 出向ク。午後五時過廉堂帰宅ス 種々談話アリ。夜小倉 来

九月一日 晴 午前竹政来。中村長安ヲ訪フ。震災記念 日ナリ。午後福島氏ノ使来ル。

二日 晴 午前山田ニ行 殖〔植か〕原氏 星野老ニ逢フ。

三日 曇

日 四日 晴 午後町田実秀一行来。午前大橋微笑 中村 長安 趙氏来。小倉来

五日 晴 俱樂部午餐会ニ行。小倉来

六日 晴 午後慧介 豊等ト家計ノ前途ニ付イテ相談 ス。夜小倉来

七日 晴曇

八日^(ママ) 午前金子来。中村長安来。前田兼七来。夜介、豊等ト浅草公園二行

九日 晴雨 午前矢野二行。午後慧一郎来。木口来

十日 曇 俱樂部午餐会二行。

日 十一日 雨 午前金子来。木内七之助来。午後厥^(ママ)
〔厩か〕橋二行

十二日 雨 午後正太郎来リ 種々改革ニツキ相談ス

十三日 雨 午前慧一郎来 金子来 介二郎 豊等ト財政改革ノコト^一ニツキ相談ス。午後正太郎来。夜小倉来

十四日 晴時々雨 午前正太郎来。午後介、豊 日光二行。山田二行。

十五日 晴雨 午前介 豊 日光ヨリ帰ル。午後青山二行 孝三多少ノ衰弱ヲ見ル。竹町事務所二行。夜小倉来

十六日 雨 午後豊ト杉ノ森取引所二行キ柿沼氏ニ逢フ
十七日 雨 午前足痛ノ為メ山田二行。慧一郎来。介二

郎日光ニ使ス。午後小倉来

日 十八日 久々ニテ青天ヲ仰ク。博文堂老人来。春日井上京ス。介二郎日光ヨリ帰ル。

十九日 晴 大ニ冷氣トナル 朝六十六度。午前安田支店二行 山田二行。午後小倉来。正太郎来

二十日 晴 俱樂部午餐会二行。午後三越二団十郎三十

年記念展覽会ヲ觀ル。桜井ニ立寄ル。夜小倉 武政兩人来。午前斎藤呉湖来

廿一日 晴

廿二日 雨 午前宮内病院二行 足痛ノ為メ。春日井来。

午後慧一郎来。正太郎来。

廿三日 雨 春〔日〕井帰名ス。久保田精謙来。中村長安来

廿四日 曇 午前お糸ト堀ノ内真盛寺ニ墓参ス。山田二行 午後小倉来

日 廿五日 晴 午前廉堂ト天王寺二行 河田母堂ノ一週年忌法会ニ臨ム。午後木内淇堂 横田真斎来。関原来足ノ治療ヲナス。夜小倉来

廿六日 晴 午前松坂屋ヘ行。俱樂部午餐会ニ出席 五来欣造氏ノ「ムツソーリニとヒトラ」ノ講演アリ。夜廉堂活動二行

廿七日 晴曇 午後日本橋区役所二行 信用組合役員会 女学館維持委員会アリ。末広亭ニテ津村 細田両氏ノ貴族院議員当選ノ祝賀会ヲ六ノ部会有志 豊美会員ニテ開ク 臨席ス。豊 名大屋ヨリ帰る

廿八日 雨 午後小島来。正太郎来。三千代来

廿九日 晴曇 午後神田二行。夜活動 不如帰ヲ觀ル

三十日 雨 午後慧一郎来。

十月一日 曇夜雨 本日ヨリ東京市区域拡張トナリ此
辺モ滝野川区トナリテ市ニ編入サル 各地ニ祝賀会アリ
ト云フ 中村長安来

日二日 晴 午後小倉来。夜慧一郎来

三日 晴后雨 午前お糸ト三野村二行。午後山田二行。

正太郎来

四日 雨

五日 晴 倶楽部午餐会二行 信夫淳平氏ノ国際関係ノ
講話アリ。午後小倉来。夜慧一郎来 錦城学校ノ事ニ関
シ安井鉉次郎 肥田精一郎 佐藤六郎等来

六日 晴 午前松阪やヨリ里門町銀行二行。夜武政 肥
田来

七日 晴 午前厩橋二行。正太郎来。午後慧一郎来。小
倉 武政来 中学ノ件断ハル。

八日 晴 午後お糸 金子ト鎌倉二行 処々見物ス。

九日 晴 午前慧一郎来 小倉来 共ニ浅草新谷町ノ学校
ニ舍ヲ觀ル 前川ニテ午餐シ竹町二行 金比羅社祭礼ナリ
神楽アリ 三野村 番町等ノ子供来

十日 晴 午前竹町二行 金比羅社祭礼執行ス。夜小倉
武政 勝野政三来 慧一郎来 浅草校舍ノ話アリ

十一日 晴 午前矢野氏二行 黒門町銀行ニ立寄ル

十二日 晴 午後中村長安来。五時ヨリ茅場町喜嘉久ニ
行。信用組合役員ニテ細田氏ノ祝宴ヲ開ク。夜慧一郎
小倉来

十三日 晴 午後中村長安ヲ訪フ 山田二行。百話会ニ
百尺二行

十四日 晴 午後お糸ト大崎二行。日々新聞社階上ニ泰
東書道院役員会アリ 出席ス 電気倶楽部ニテ晚餐ス

十五日 雨

日 十六日 曇 夜慧一郎来 小倉来

十七日 晴 午前お糸ハ斎藤呉湖ノ画会ニ上野梅川二行
〔欄外に「秋季皇霊祭」と記載する〕

十八日 晴 午前お糸ト山田老先生一週年ニツキ染井墓
地ニ参詣 山田氏二行 岐阜大龍寺ノ和尚来リ法会アリ
午餐ヲ饗セラル。午後五時ヨリ細田氏ノ祝宴ニ招カレテ
「喜嘉久」ニ行ク 来会百七十余ニテ盛会ナリキ

十九日 晴

二十日 晴 倶楽部午餐会二行 松坂屋ニ廻ル。

廿一日 晴 午前沢本猛^(マツ)〔孟〕虎来。金子来。午后中村
長安来

廿二日 晴 午前熊本八十太郎来 午餐出ス。午後五時

ヨリ池ノ端清涼亭ニ行 野生司香雪ノ印度行二つき送別
会開ク。

廿三日 曇 午前斎藤呉湖来。午後川村驥山来。山田ニ
行 中村長安ヲ訪フ。小倉来

廿四日 晴 大掃除ニテ番町ニ廻リ午後帰ル

廿五日 晴 倶楽部ノ午餐会ニ行 伊藤癡遊ノ遷都談アリ。
渡辺善十郎ノ母堂ノ告別式ニ深川安宅町ノ自宅ニ臨ム。
孝三夫婦久々ニテ来ル。竹政 小倉来

廿六日 晴 午前金子来 十和田ニ一遊シ 昨日帰京スト
云フ 頻リ「ニ」其勝ヲ説ク 依テ余モ明日一遊ニ決ス

【附記】

本稿の執筆に際し、菊池隆村氏より本日記のご提供を受けた（本日記の無断複製・加工を禁ず）。記して御礼申し上げたい。本稿は二〇一八（平成三〇）年度特定研究費A「中国書画碑帖の日本流入に関する研究―収蔵家・菊池惺堂を起点として」（相模女子大学）の成果の一部である。

（本学専任講師）